

平成23年1月24日

宮崎県で高病原性鳥インフルエンザ (H5亜型)発生！

発生農場： 1例目：宮崎市の種鶏農家 10,240羽飼養
2例目：児湯郡新富町の採卵農家 66,000羽飼養
(養鶏団地としては41万羽飼養)

経緯： 1例目：1月21日午後5時15分に農場から通報
簡易検査を実施したところ、7例中6例が陽性
1月22日、遺伝子検査でH5亜型と確認したことから、
同日中に殺処分を実施 → 終了した

2例目：1月23日午前10時頃に農場の属する組合から通報
簡易検査を実施したところ、6羽中5羽が陽性
1月23日、遺伝子検査でH5亜型と確認した

飼養衛生管理及び早期発見早期通報の徹底を！

鳥インフルエンザの症状(日頃から注意して観察してください)

沈うつ、顔面や頸部の浮腫性腫脹、肉冠・肉垂の腫脹、肉冠の壊死と出血、脚部の皮下出血、食欲・飲水欲の減退、産卵の停止及び緑色下痢便の排泄、突然死など



沈うつ



肉冠の出血・壊死、



脚部皮下の出血



突然死

家きんの急な死亡率の増加や異常があれば、すぐに家畜保健衛生所まで
ご連絡ください！ **24時間受付けています！！**

西部家畜保健衛生所 TEL:0551-22-0771(平日)

090-5564-1018(土日・休日・夜間)

090-5568-0817(土日・休日・夜間)

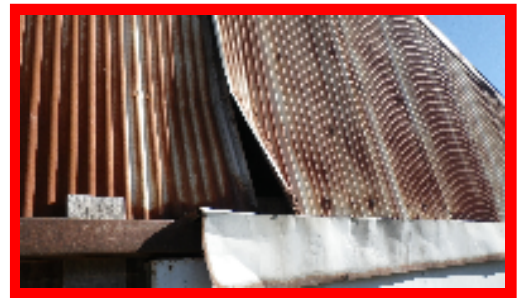
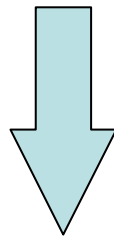
注目！

平成22年度は、10月に北海道で野生のカモの糞から高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離されて以降、島根県の採卵鶏農場でインフルエンザが発生したのをはじめ、鳥取県(コハクチョウ)、富山県(コブハクチョウ)、鹿児島県(ナベヅル等)福島県(キンクロハジロ)などでウイルスが分離されており、**野鳥が原因**と考えられています。

今回の宮崎の事例の感染経路については、今のところわかっていませんが、農場へのウイルス進入を防止するため、特に、**以下の対策の徹底をお願いします。**



鶏舎の金網の破れ



鶏舎トタン壁のめくれ

- 鶏舎には**2cm角以下の網目の防鳥ネット**を上から覆うように、ゆったりと垂らすように張り、**間隙を塞ぎ**ましょう。また、破損が見つかったら、**直ちに補修**しましょう。
- 防鳥対策と同様、**間隙を塞ぎ**、ネズミの侵入を防止しましょう。
- ネズミを見つけた場合、その侵入経路を見つけ、捕獲装置の設置、殺鼠剤の使用により駆除しましょう。
- 鶏舎周辺、農場敷地周縁及び農場内道路へ**消石灰**を**散布**しましょう。
- 鶏舎の中に入ったら、**すぐに扉を閉め**ましょう。